

中城湾港長期構想



令和3年4月
中城湾港港湾管理者

中城湾港長期構想の背景と目的

1. 中城湾港港湾計画は平成2年に改訂（目標年次平成12年）し、その後も様々な要望等に対応するための一部変更等を経て現在に至っている。
2. 当該計画に基づき、港湾の整備が着実に進展している一方で、計画改訂から約30年経過する間に中城湾港の取り巻く社会経済情勢は大きく変化し、各地区で新たな拠点形成の構想が検討され始めている。
3. 中城湾港を取り巻く社会経済情勢の変化を踏まえ、沖縄県全域の発展を加速させる「みなとづくり」を進めることを目的に、次期港湾計画改訂や新たな振興計画を見据えた長期構想を策定する。



【参考】長期構想と港湾計画の関係

<長期構想とは>

学識者、港湾利用者、行政機関、県民など様々な港湾関係者の意見・要請をもとに、概ね20年～30年先の長期的視野に立った総合的な港湾空間のあり方を構想・ビジョンとしてまとめたもの。

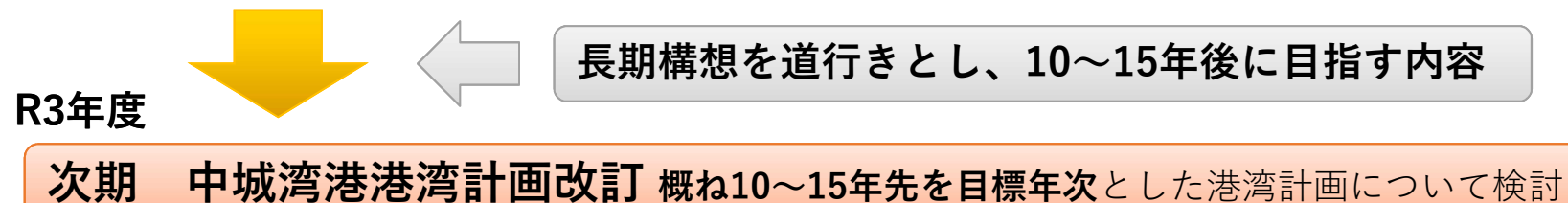
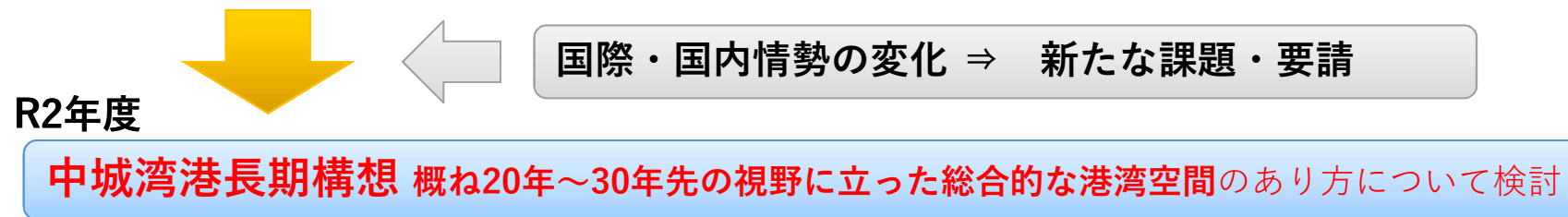
<港湾計画とは>

港湾の開発、利用及び保全等の方針、港湾施設の規模及び配置等について計画としてまとめたもの。長期構想を道行きとし、10年～15年後に目指す内容を新しい港湾計画にまとめる。

※港湾計画とは、港湾の開発、利用及び保全を行うにあたっての指針となる基本的な計画であり、港湾法第3条の3に規定されている法定計画である。

※計画の変更にあたっては、地方港湾審議会の審議後、国土交通省に提出。更に交通政策審議会の審議を経る必要。

現 中城湾港港湾計画 (改訂：平成2年8月、一部変更3回、軽易な変更11回)



中城湾港長期構想検討委員会

- 本長期構想の策定にあたっては、港湾関係者に加え、環境や観光など様々な分野の有識者による検討委員会を設置し、計2回の委員会を実施し、検討を行っている。

委員名簿（敬称略）

氏名	役職	摘要
津嘉山 正光	琉球大学 名誉教授	委員長
土屋 誠	琉球大学 名誉教授	
知念 肇	琉球大学国際地域創造学部 教授	
洲辺 美紀	沖縄経済同友会 代表幹事	
島袋 修	一般社団法人 沖縄港運協会 会長	
山城 博美	沖縄地方内航海運組合 理事長	
大城 毅	一般社団法人 沖縄県倉庫協会 会長	
当真 聡	中城湾沿岸漁業振興推進協議会 副会長	
下地 芳郎	一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー 会長	
中島 洋	沖縄総合事務局 開発建設部長	
東城 英雄	中城海上保安部長	
川口 隆	沖縄地区税関 次長	
松田 了	沖縄県環境部長	
長嶺 豊	沖縄県農林水産部長	
嘉数 登	沖縄県商工労働部長	
渡久地 一浩	沖縄県文化観光スポーツ部長	
上原 国定	沖縄県土木建築部長	
島袋 俊夫	うるま市長	
桑江 朝千夫	沖縄市長	
照屋 勉	与那原町長	
瑞慶覧 長敏	南城市長	
岩永 洋	第十一管区海上保安本部 警備救難部 次長	オブザーバー
嶋崎 賢太	那覇港管理組合 企画建設部 次長	オブザーバー

中城湾港長期構想の基本理念

社会経済情勢の変化

- アジアのダイナミズム(経済成長、富裕層増加)
- 第四次産業革命(Society5.0)
- SDGs(持続可能な開発目標)
- 自然災害の激甚化
- 新型コロナウイルス感染症(ウィズ/アフターコロナ、ニューノーマル) 等

上位・関連計画

- PORT 2030
- 沖縄21世紀ビジョン基本計画
- アジア経済戦略構想
- 各市町村の総合計画
- 沖縄県・各市町村の観光振興計画 等

沖縄県・中城湾港の現状と課題

<沖縄県の現状と課題>

- 人口増加・少子高齢化
- 2次産業の集積・定着
- 急激な地価の上昇
- 入域観光客の増加、高付加価値化、平均滞在日数の増加
- 道路交通渋滞
- 海運関係労働者の減少・高齢化
- 東海岸のポテンシャル(MICE、世界遺産、新たな経済軸の形成等) 等

<中城湾港(物流・産業)の現状と課題>

- 那覇港と中城湾港の機能分担・有機的連携
- 定期航路の拡充、船舶の大型化対応
- 企業立地の進展による新たな産業用地の検討
- レンタアップ車の増加・搬出入環境整備
- 大型バルク船の寄港対応

<中城湾港(交流・賑わい)の現状と課題>

- 大型クルーズ船の予約制限・受入環境整備
- スーパーヨットの寄港増・受入環境整備
- 東部海浜開発事業の進展・土地利用計画検証
- マリナタウンプロジェクト外の概成・大型MICE施設計画

<中城湾港(安全・安心)の現状と課題>

- 大規模地震・津波災害への対応
- 台風常襲地帯としての対応(高潮・高波対策)
- 港湾施設の老朽化対策
- 離島航路の安定運航
- 大型巡視船の係留場所の確保

<中城湾港(持続可能な地域)の現状と課題>

- 貴重な自然環境、開発・利用との共生
- リサイクルポート指定・循環型社会への貢献
- 脱炭素社会への貢献

- 沖縄県・中城湾港を取り巻く社会経済情勢の変化、関係する上位計画、現状と課題を踏まえた中城湾港長期構想の基本理念を設定。

中城湾港長期構想の基本理念

沖縄の新経済軸

沖縄らしい新たな価値を創造する臨港都市・東海岸サンライズポート

中城湾港の将来像（果たすべき役割）

- 長期構想の基本理念に基づいて、「物流・産業」「交流・賑わい」「安全・安心」「持続可能な地域」の観点から中城湾港の将来像（果たすべき役割）を明確化。

物流・産業

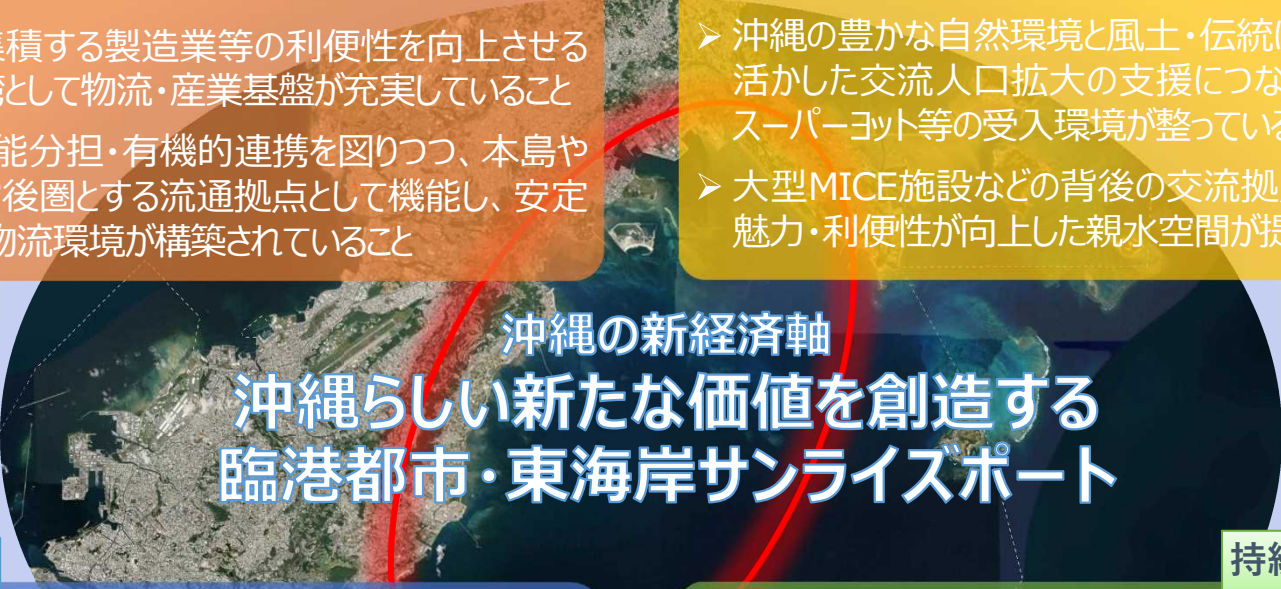
自立型経済の構築を支える物流・産業拠点

- 中城湾港に集積する製造業等の利便性を向上させる産業支援港湾として物流・産業基盤が充実していること
- 那覇港との機能分担・有機的連携を図りつつ、本島や周辺離島を背後圏とする流通拠点として機能し、安定的・効率的な物流環境が構築されていること

交流・賑わい

地域資源を活かしたアジアの誇れる国際交流拠点

- 沖縄の豊かな自然環境と風土・伝統に根差した文化を活かした交流人口拡大の支援につながるクルーズ船やスーパーヨット等の受入環境が整っていること
- 大型MICE施設などの背後の交流拠点と連携し、更に魅力・利便性が向上した親水空間が提供されていること



沖縄の新経済軸
沖縄らしい新たな価値を創造する
臨港都市・東海岸サンライズポート

安全・安心

暮らし・仕事・観光の安全・安心を支える中城湾

- 東海岸の大規模災害時の防災拠点として機能するとともに、本島のリダンダンシーを確保し災害に強い強靱な県土となっていること
- 暮らし・仕事・観光など人々が様々な用途で安心して利用できる港湾環境となっていること

持続可能な地域

経済・社会・環境が統合的に向上した 持続可能な中城湾

- 中城湾に生息する希少な生物や多様な自然環境に配慮され、港湾の整備・利用と共生・調和されていること
- 港湾活動が脱炭素社会・循環型社会の構築に貢献していること

将来像に向けた基本戦略

- 将来像の実現に向けて、国・県・市町村・民間事業者で取り組む基本戦略は以下のとおり。

将来像1 自立型経済の構築を支える物流・産業拠点

- | | |
|-------|---|
| 基本戦略① | 東海岸地域の生産拠点の形成、生産性向上に寄与する産業支援港湾としての機能強化・拡充 |
| 基本戦略② | 那覇港との連携・役割分担を図りつつ、流通拠点としての安定的・効率的な物流環境の創造 |

将来像2 地域資源を活かしたアジアの誇れる国際交流拠点

- | | |
|-------|-----------------------------|
| 基本戦略③ | 多彩で高付加価値の国際観光・交流拠点の形成 |
| 基本戦略④ | 観光・交流拠点の形成とブランド価値を生む親水空間の提供 |

将来像3 暮らし・仕事・観光の安全・安心を支える中城湾

- | | |
|-------|----------------------------|
| 基本戦略⑤ | 平時から様々な用途で安心して利用できる港湾環境の整備 |
| 基本戦略⑥ | 災害に強い海上輸送ネットワーク機能の強化、確保 |

将来像4 経済・社会・環境が統合的に向上した持続可能な中城湾

- | | |
|-------|----------------------------------|
| 基本戦略⑦ | 良好な港湾環境の維持、生物多様性の保全等による環境との共生・調和 |
| 基本戦略⑧ | 脱炭素社会・循環型社会に貢献する港湾活動の推進 |

基本戦略に基づく主要施策、取り組み

将来像 1 自立型経済の構築を支える物流・産業拠点			
基本戦略	主要施策	取り組み	対象地区
① 東海岸地域の生産拠点の形成、生産性向上に寄与する産業支援港湾としての機能強化・拡充	A 効率的で生産性の高い物流ターミナルの整備、運営	1 航路の新設・拡充 2 船舶・貨物・荷役特性を踏まえた機能的な物流ターミナルの整備 3 官民が連携した効率的なサプライチェーンの形成支援	新港 新港 新港
	B 既存施設の再編・強化	4 在来貨物ふ頭の再編・強化 5 周辺道路の渋滞対策	新港 新港
	C 新たな産業空間の確保、関連産業の立地促進	6 産業用地の確保及び関連産業の立地促進	新港
② 那覇港との連携・役割分担を図りつつ、流通拠点としての安定的・効率的な物流環境の創造	D 那覇港と中城湾港の機能分担・有機的連携の推進、両港の連携を強化する陸上・海上ネットワークの形成	7 那覇港と中城湾港の機能分担・有機的連携の推進	新港
		8 両港の連携を強化する陸上・海上輸送ネットワークの形成	新港
将来像 2 地域資源を活かしたアジアの誇れる国際交流拠点			
基本戦略	主要施策	取り組み	対象地区
③ 多彩で高付加価値の国際観光・交流拠点の形成	E アフターコロナを見据えたクルーズ船寄港地の形成	9 県内全域の需要推計、県内各港湾の機能分担・連携、地域経済効果の最大化の検討 10 クルーズターミナルの整備 11 短期的なクルーズ客の利便性、安全性の確保	全域、新港 新港 新港
	F 観光の高付加価値化に資するスーパーヨットの受入環境整備	12 スーパーヨットの受入環境の整備	西原与那原 泡瀬
	G 大型MICE施設及び関連施設と調和したマリーナ整備、イベント開催による利用者拡大	13 大型MICE施設周辺整備の推進	西原与那原
④ 観光・交流拠点の形成とブランド価値を生む親水空間の提供	H 観光・交流拠点の形成 I 海洋性レクリエーション需要への対応と水際空間の有効利用	14 東部海浜開発事業の推進・供用	泡瀬
		15 海洋性レクリエーション需要への対応と水際空間の有効利用	全域、泡瀬、熱田、西原与那原、馬天、仲伊保、安座真

基本戦略に基づく主要施策、取り組み

将来像3 暮らし・仕事・観光の安全・安心を支える中城湾			
基本戦略	主要施策	取り組み	対象地区
⑤ 平時から様々な用途で安心して利用できる港湾環境の整備	J 安全・安心を支える環境整備	16 海岸保全施設の整備（高潮対策） 17 港湾施設等の戦略的な維持管理の推進 18 港湾の水際対策（SOLAS、CIQ、特定外来生物）	全域 全域 新港
	K 離島航路の安定運航の維持	19 船だまり機能の充実	安座真、津堅
	L 領海保全の支援	20 領土・領海警備体制強化への支援	新港
⑥ 災害に強い海上輸送ネットワーク機能の強化、確保	M 防災・減災対策の推進	21 ハザードマップの整備・更新、避難施設の指定、避難訓練の実施（市町村） 22 関係企業等と連携した港湾BCPに基づく継続的な訓練の実施・見直し	全域 新港、中城、小那覇、仲伊保、安座真、津堅
	N 防災拠点の整備・本島のリダンダンシーの確保	23 災害時の緊急物資等の搬送機能を確保する臨海部防災拠点の整備	新港

将来像4 経済・社会・環境が統合的に向上した持続可能な中城湾			
基本戦略	主要施策	取り組み	対象地区
⑦ 良好な港湾環境の維持、生物多様性の保全等による環境との共生・調和	O 環境との共生・調和	24 海浜・野鳥園の整備、環境学習の実施 25 環境・景観に配慮した港湾施設整備 26 多様な生物等の保全、自然との良好な触れ合い環境の保全・創出並びに利活用の促進	泡瀬 全域 全域
⑧ 脱炭素社会・循環型社会に貢献する港湾活動の推進	P 脱炭素社会の構築支援	27 持続可能な社会の構築に向けた新エネルギーの活用 28 那覇港との機能分担・連携による貨物流動の分散、移動距離の削減	全域 新港
	Q 循環型社会の構築支援	29 循環型社会の構築支援	新港

中城湾港における長期的な空間利用ゾーニングの設定

中城湾港の将来像（果たすべき役割）である「自立型経済の構築を支える物流・産業拠点」「地域資源を活かしたアジアの誇れる国際交流拠点」「暮らし・仕事・観光の安全・安心を支える中城湾」「経済・社会・環境が統合的に向上した持続可能な中城湾」の実現に向けて、地区特性を踏まえ、効率性、快適性、安全性の観点から調和のとれた空間利用が実現するように空間利用計画（ゾーニング）を設定する。

物流・産業 振興ゾーン	沖縄本島や中城湾港背後圏等の産業・経済・生活を支える物流拠点として、港湾施設及び物流施設の利用に供し、また、臨海部を利用する企業に対応を図る空間	【キーワード】貨物船（RORO船・PCC船・バルク船等）、静脈物流、リサイクルポート、エネルギー拠点
親水・交流 ゾーン	人々が海や港を通じて交流し、賑わい・憩うことができる空間	【キーワード】クルーズ、スーパーヨット、マリナー、MICE、ウォーターフロント
小型船だまり ゾーン	地域の水産業等の振興を支援するとともにマリンアクティビティ拠点としての機能強化に取り組む空間	【キーワード】船だまり・関連する港湾施設、遊漁船、その他小型船
共生環境創造 ゾーン	社会と自然が調和の中で共生し、持続的な発展を可能にする環境の創造に取り組む空間	【キーワード】持続可能性、脱炭素社会、環境負荷の少ないエネルギー

中城湾港の空間利用計画 (ゾーニング)

〔沖縄の新経済軸〕沖縄らしい新たな価値を創造する臨港都市・東海岸サンライズポート



背景図: 「国土地理院」 (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>)

中城湾港長期構想の実現に向けた推進方針

- 中城湾港長期構想は、「物流・産業」、「交流・賑わい」、「安全・安心」、「持続可能な地域」の観点で定めた4つの将来像のもと、8つの基本戦略とそれに基づく施策・取り組みについて、ハード・ソフトの適切な組み合わせにより推進することで、中城湾港の更なる発展を目指すこととしている。
- 港湾は本県の物流・人流の拠点となる対外交流の重要な基盤であり、本県の経済振興を図るためには、生産拠点や観光・交流拠点等と有機的な連結を図り、更に、防災拠点としての機能強化や港湾の開発、利用と豊かな自然環境との共生・調和を持続的に図る必要がある。
- そのためには、港湾分野のみならず、産業や観光、道路・交通、防災、環境等に関わる行政機関や民間事業者、教育機関、県民等の多様な主体の理解と参画による連携、協働が重要となることから、これらの関係機関と連携し取り組みを進める。

